

第3回 南幌町総合計画策定審議会＜議事概要録＞

日 時 令和8年6月30日（火）
午前10時から午前11時55分
場 所 役場3階 各種委員会室

出席者	委員：12名 木村会長、磯野副会長、石川委員、北田委員、酒井委員、竹山委員、永原委員、林委員、本間委員、増田委員、山下委員、吉田委員
	町：3名 齊藤課長、草沢課長補佐、加藤係長
欠席者	委員：2名 高島委員、田中委員

1 開 会 事務局	（開会前に前回欠席された委員から自己紹介をいただいた。） ただいまより第3回南幌町総合計画策定審議会を始めさせていただきます。 委員の交代がございましたので、委嘱状を交付させていただきます。
2 委 嘱 状 交 付 事務局	齊藤課長より石川委員及び北田委員へ委嘱状の交付を行う。 （新たに委嘱された委員及び初出席となる委員より挨拶） 総合計画策定審議会会長であります木村会長よりご挨拶をお願いいたします。
3 会 長 挨 拶	おはようございます。 今日は第3回目ということでよろしくお願いいたします。 皆さんに資料を配付させていただきましたのでそちらをご覧ください。 私が主宰する「日本地域創生学会」は今年で10周年になりますが、地域で担い手やリーダーなど、プロデュースができる人材を育てようということで、高校、大学や大学院等を通じて、特に社会人の学び直し（学びほぐし）を進めてきました。 地域創生においては、知育、食育、木育などのバランスをとる「五感六育」が重要だと考えています。「ないものねだり」をす

	るのではなく、「あるもの」をどのように生かすかという視点で、「五感」を使って地域の魅力を研く必要があります。 「六育」の中の食育においては、五つの味（甘い・しょっぱい・酸っぱい・苦い・うまみ）を12歳までに何度となく体験する機会を作ることが小脳や脳への刺激として非常に重要です。 地元の食材を学校給食などに出して子どもたちに食べてもらうことは大事ですが、五つの味を体験する機会を作っていくことが食育の中で非常に重要だと考えていまして、この六つの育のバランスをいかにとるかを重視しています。 「+α」として、南幌町で、もう一つの希少性を発揮し、子どもたちに引き継ぐとしたら何があるのかということを考えることが大切だと考えています。 資料に記載のある「実学・現場重視の視点」、これを私どもは大変重要だと考えています。 理論（先行研究）は私どもも勉強していますがそれを本当に南幌町に落とし込んだときに、どのように実用として役に立つのかと、これがいわゆる「実学」です。 また、南幌町では「はれっば」に年間約17万人来ていただいています。それを部分的な個別の最も良い状況をどのようにつなぎ他に効果を出すのか、全体最適化していくのかという発想が大事ではないかというのが二つ目です。 行政や民間、農協さんだけがやるのではなく、いかに役割分担をしていくのか、ストーリー化していくことが大事ではないかというのが三つ目です。 そもそも地域創生の本質とは何かというと、ここに住み暮らす人たちが「このまちが大好きだよね」「このまちにはこういう楽しいことがあるよね」とみんな集まって、本当に団らんで楽しいことができるのが大事なのではないかと考えます。 地域創生の実践ですが、次のステップアップをする中では、今まで総合計画を踏まえながら、町が町民の皆さんと一緒にやってきたけれども、本当にこの「順番」でよかったのだろうか。第6期まではこの「順番」で実施したけれども、違う「順番」があるのではないかと。いわゆる「順番」を見直す必要性はないかを考える必要があると考えています。 二つ目は、「視点」です。どうせやったら無理だよということではなく、こういう形をとればここまではできるのではないかと、固定観念を捨てようというのが二つ目です。 三つ目が、「役割分担」して実践することです。部分的な個別
--	--

	な形でやっていたものをつないで、それをより広げていくために役割を分担していく必要性があるのではないかということで、「ないものねだりからあるもの探しをしましょう」ということにしています。 ないものねだりをするまちは結構あります。新幹線や空港がない、半導体がうちに来ないなど、色々なことをいいますが、本当に自分のまちにとって必要なのか、資料に記載しているように「ひと・こと・もの」に関して、「過去にはあって今もあるもの」「過去にはないが今はあるもの」、「過去にはあるが今はないもの」「過去にもないし今もないもの」を一度考えてみる必要性があるのではないかと考えます。このようなところを参考にさせていただきながら、今日、自由なご意見をいただければと考えます。 どうぞよろしくお願いいたします。
4 報告事項	
事務局	以降の進行につきましては木村会長よりお願いいたします。
会 長	それでは報告事項の1番目、町民アンケート等の結果概要について事務局より説明をお願いします。
事務局	(1) 町民アンケート等の結果概要について 事務局よりこれまでの経過等及び町民アンケート等の結果概要について説明する。
会 長	ご質問や疑問点などありましたらお願いします。
委 員	町民アンケートで「ごみ処理の充実」という項目があったが、これはどういう意味かと疑問に思う。
事務局	アンケート結果だけでは詳細な分析はできませんが、ごみの回収頻度や分別の難しさに対する不満が含まれていると考えています。特に転入された方が、以前の居住地との分別の違いに不満を感じていると推測されます。 また、若い世代の転入増に伴い、おむつの回収回数を増やしてほしいという要望が議会でも出されています。さらに、高齢者にとってプラスチック等の分別が難しく、ごみが残されるケースもあるため、町ではボランティアに協力いただき、ごみ捨てのサ

	ポート事業を実施して対応しておりますが、恐らくそういった部分ではないかと思われます。
会 長	それでは報告事項の２番目、その他について事務局より説明をお願いします。
事務局	事務局より、町の動きについて口頭で、国勢調査結果について議案３ページ資料２に基づき説明する。
会 長	ありがとうございます。 北海道が 70 年ぶりに人口 500 万人を割る状態となりましたが、その主な原因は女性の道外への流出が男性の 2 倍を超えている点にあると分析しています。 第一次産業や建設業、製造業などにおいて、女性が関わりにくいイメージがあり、高校生や大学生のうちに首都圏へ流出していると考えられます。女性が活躍できる具体的な姿を打ち出していかなければ、人口流出への対応は困難だと考えています。 人口流出が止まらない状態なのが静岡県、そして兵庫県です。静岡県が北海道の次の２番手で、３番手が兵庫県という状態になっていますので、どういう状況なのか、原因は何なのか調査をしているところです。その内容等が分かった時点で、皆さんにお知らせさせていただきたいと考えています。
5 そ の 他 会 長	５番のその他、町の弱み・強み等についての意見交換ということで、今日皆様にお忙しい中、出席していただいておりますので、お話をいただければと思います。 なお、SWOT（スウォット）分析というものを聞いたことがあるかも知れません。これは強みと弱み、機会と脅威です。この四つの枠で自分のまちの強み、弱み、今のピンチ、危機的なこと、チャンス、機会は何だろうということを分析する手法です。通常は、強みと弱みを考えてみましょうというのですが、実はこれには順番がありまして、強みから行うのではなく弱みや脅威からスタートします。例えば、今の南幌町のピンチなところは何なんだろう。今、こういう部分がよくなるといいなと思ってることは何なんだろう、弱みとは何なんだろうといったところを先に考えます。強みやチャンスから考えるのではなく、弱みやピンチから考えていくということです。強みから行うのと、弱みから行

	うのとでは全然違うわけです。自分の得意技はなんだというところから考えるのと、自分の苦手とするところはどこなんだというところから考えるのとではやはり分析内容が変わってくるわけです。 このようなことも含めて、ここでは、町の弱み強みなどについての意見交換ができればと考えております。忌憚のないご意見を順番にお願いいたします。
委 員	強みという点でお話しします。 私は今から 15 年ぐらい前に退職したのですが、その時は石狩管内で勤務していきまして、退職してから旧職員が集まるOB会を年 1 回、大体北広島市などで行っています。私も退職した翌年に参加したのですが、そのときに、当時の会長から、よく来たなと、大変褒められました。会長にしてみれば、相当の時間をかけてきたんだということで、そういう考えがあったのだと思います。そして今から 4、5 年前に、会長とお会いして話したときに、「南幌町は北広島市から本当に近いな。この前、娘と孫を連れて、はれっばに行ったが、全然近いじゃないか」と言われました。 それを考えると、今は南幌町に人を呼び込むチャンスではという考えでおります。
委 員	

	働く人を呼んでさらに、工業団地の近くに住めるような環境を整備していけば、誘致して、雇用の人も連れて家族も来てもらえるのではないかなと思っています。
委 員	交通の便の不便さが家庭の通学費を圧迫してるなというのがあります。
委 員	私のお店は今6人いまして2人が南幌町在住の職員です。話をよくするのですが、悪いところはまずクリーニング屋さんがない、アパートがない。良いところでは、ごみステーションがない。カラスが少ない。そこが良いところだと思っています。
委 員	今年初めて国道沿いの花植えが行われず、子どもたちからも「草ぼうぼうだね」と言われて気になっていました。 また、最近の子どもたちは定められた通学路を守らず自由に帰宅する傾向があるので安全面で不安を感じています。
委 員	私は南幌町に住んで25年になりますが、非常に満足しています。弱みでいうと、アンケートに出ていましたが、交通の便です。色々なアンケートを見ますと、特に若者が交通の便に不満があるようです。あいる一とが運行してかなり良くなったと感じています。あいる一とを充実させれば、そういう不満もかなり減ってくるのではないかなと思います。当然経費がかかるとは思いますが、もっと進化させる必要があると思います。あとは非常に満足しています。
委 員	先ほどのアンケート結果は、現状に満足されている方も多かったように感じましたが、ただその反面、引越したいという方も若い人にいるというのが気になりました。
委 員	公共交通については、利用者が少ないためバスが減便されるのはやむを得ない面もありますが、近隣駅までのアクセス方法を含めて町として検討していただきたいです。バス路線と競合してしまうと問題があるので、非常に難しい問題だとは思いますが、少し考えていただければと思います。 あと、私も南幌町で生まれてもう70年経ちましたが、どんどん進歩して、農業も含めいいまちになっているかなと思います。農業は今、一戸あたりの農地面積は拡大していますが、農業者人口

委 員	は減少しています。小規模では生活できないという矛盾があり、規模拡大だけが良いわけではないため、国の施策としても考えてもらう必要があります。 まず弱みとして、移住者で店舗を開業したい人が多くいるにもかかわらず、小規模な店舗用のテナントがないため、南幌町での開業を断念するケースがある点です。 また、ペットを飼う方が増えていますが、ペット可の賃貸アパートがないため、南幌町に引っ越して働けないという声も多く、賃貸やテナント不足は弱みなのかなと思います。 あとは、良い建物がいっぱいあるのに、そこに呼びこめてないのが結構もったいないと思っています。例えばビューローはすごい良い場所に駐車場があるのに、うまく使えていないと思ったり、はれっばも素材はいいのですが、最近流行っている室内で遊べる施設だとおびひろ動物園にもあって、そこと比べるとつまらないなと思ってしまうときもあります。他にも、小学生が来てしまうと小さい子が全然遊べなくなってしまうとか、何かもったいないなと感じる部分があります。あとはまちのPRが下手だなと思います。 強みとしては、札幌市や空港からのアクセスが良く、立地が非常に良い点です。私もお店を始めて明日で1年になりますが、大体月にほぼ新規のお客様が500名ぐらいは来ていただいていると考え、場所さえあれば人は集まるというのは強みなのかなと思います。あとはイベントとかお祭りとかがすごく多いところも強みなのかなと思っています。
委 員	産業として農業、工業などで稼げるまちになっていると思う反面、観光的な部分は、まだまだ弱いのかなと思っています。休日に多くの人々が来町しても、飲食店や宿泊施設が不足しているのが現状です。農業体験や工場見学など、既存の産業を観光資源として生かすことができれば、飲食業等への恩恵もあり、新たなチャンスが生まれると思います。
委 員	南幌町には若い人も増えていますが、元々住んでいる高齢者はAIやSNS、マイナンバーカードなど便利なものがあるにもかかわらず使い方がわかりません。高齢者も便利なツールを活用できるよう、講習会などを実施してはどうかと思います。

事務局	公共交通についてですが、あいるーとは利用者が伸びています。町内はそれで何とか補完していますが、町外とつなぐ部分については、路線バスが3路線走っていますが、運転手不足などによりバス会社が待遇を改善しても厳しい状況が続いています。待遇の良い会社が運転手間で情報共有されてそちらにいつてしまうという現状を聞いております。 乗っていただかないと便数が減っていくので、町でも町広報で特集を組み、バスをご利用くださいということで、町民の皆様にPRをさせていただきました。 今は過渡期で、なかなか抜本的な打つ手がない状況です。朝の便はバス会社もなんとか確保していただいている状況ですが、昼間の便や最終便などについて何とかカバーしていきたいと今担当の方で検討しています。いつまでにこれをするとは言えない状況ですが、町の方も考えている状況です。
会 長	私は 22 年間小樽のまちづくりを実施しましたが、「ものづくり職人活動」というのに強い関心を持ちました。当初から職人の皆さんのものづくり活動についてお話をお聞きし、そこから江戸切子、薩摩切子があるのに、小樽切子がないということに気づきました。ガラスをカッティングするため、東京の深川地域から職人さんを 28 人誘致させていただくなどやってきました。 私は、芸術文化に強い関心を持っています。もちろん地場産業を推進するというのを一番に置いています。地場産業を何とか元気にするための企業誘致などを行ってきました。地元の産業、いわゆる定住している方が大事で、定住している方々と一緒にやっていただく移住の方が大事で、というように順番があります。定住してる方々が今後、定住していくに当たって自分の子どもや孫などを、ここに住んでほしいなと考えたとき、何を大事にしてるんだろうか。来ていただいた方は、新しい見方をします。私は遠軽町出身ですが小樽市出身ではありませんので、なぜ歴史的建造物を大切に研かないのだろうと思いました。1980 年当時は木骨石造が 100 棟を超えるだけありましたので、まず定義を決めて、これを歴史的建造物と称するという形をとって数え、一つずつ展開をしていくことに協力しました。 芸術文化は、地域再生にとって私は大事な一つだと考えています。南幌町の場合は、芸術文化をどのように考え、発信するのか、別にこのことは考えなくていいんじゃないかとなるのか、そこもぜひ考えてみていただければと思います。

	豊島区は東京都の中で唯一消滅自治体と言われた区です。私は区長や区民の皆さんと一緒に18年間位、ずっと取組んできて、人口増にしていきました。人口増という目的よりも、「最適人口」というのを常に私は考えています。増やせば増やすほど良いということではないかも知れません。南幌町はどのぐらいの人口規模の町を想定するのかというのも、この第7期総合計画では大事だと思っています。
委 員	今、木村会長のおっしゃった芸術文化についてですが、年度初めの町長や教育長の挨拶などの中に、「文化の香り高いまちづくり」という言葉がありました。この文化の香り高いというのは、具体的にどういうことを言っているのか知りたいです。スポーツだと活躍すると全道大会や全国大会に行き新聞に名前が載るなどありますが、芸術文化というと地味になりがちなので、文化の香り高いという言葉は町長も教育長も使っているので知りたいと思いました。今、木村会長が言う芸術文化は私も大事だと思っています。特に高齢者が多くなっていますので非常に関心を持っています。
事務局	南幌町の文化としては古くから「俵つみ唄」や「治水太鼓」などがありますが、高齢化やコロナ禍の影響で衰退している部分があります。教育長等の意図については改めて確認いたします。一方で、3年前に復活した「盆踊り」は、「はれっば」の効果もあり、町外からも多くの人を訪れ、大きなインパクトを生んでいます。 また、今年が夕張鉄道誕生100周年ということで、ぽろろの展示などを通じて鉄道ファンとの交流人口拡大やPRを図る動きも始まっています。
事務局	7月1日には「治水感謝式」が開催されます。数十年かけて手掘りで川を開削し水害を克服した先人へ感謝し功績を語り継ぐものとなります。 以前、義経神社という神社がありましたが、ご神体を南幌神社に移動し、義経神社自体はなくなりました。この神社は、元々は平取町にあり分祀してきたということで、以前平取町の議会議員さんが見えられた経緯もあります。そういうこともだんだん平取町でも分からなくなっているというお話をお伺いしました。平取町から分祀された義経神社の由来を語り継ぎたいと

6 閉 会 事務局	いうことで、南幌町史を送った経緯もございますので情報提供させていただきます。 それでは第3回目の南幌町総合計画策定審議会をこれで終了させていただきます。本日はありがとうございました。 以 上
----------------------	---